

# 「脳卒中患者における発症後のリハビリ状況と入院中の活動状況との関連について」

## 1. 研究の対象

2021年4月～2021年6月に当院に入院された脳卒中患者（71名：脳梗塞50名、脳出血16名、くも膜下出血5名）。

## 2. 研究の背景・目的・方法・期間

### 〔背景〕

脳卒中治療ガイドライン 2021 では発症早期より早期離床と積極的な活動を推奨している。早期離床後に「できるADL」を高め、それを病棟で「しているADL」に繋げていくことはリハビリテーション専門職の大きな役割の一つですが、急性期病院における「できるADL」と「しているADL」の乖離状況や、乖離があった場合の具体的な介入方法についての報告は少ないのが現状です。

### 〔目的〕

本研究の目的は、当院における脳卒中患者の「できるADL」と「しているADL」の乖離状況について明らかにすることです。

### 〔方法〕

脳卒中患者における発症後のリハビリ状況と入院生活の乖離状況を評価します。

なお、「しているADL」は“FIM”、「できるADL」は作業療法士がリハビリテーション場面から遂行できると推察する病棟ADL状況を“予想FIM（FIMと同項目を評価）”とし評価したものを抽出します。

「FIM」と「予想FIM」を下位項目毎に得点を比較します。

### 〔期間〕

倫理委員会承認後から2023年3月31日

## 3. 研究に用いる資料・情報の種類

本研究では、当院の診療録から、通院されていた患者さんの情報を収集します。収集する情報は、性別、年齢、FIM、予想FIM（作業療法評価）、転帰先、入院日、退院日です。

## 4. 個人情報の取扱いについて

患者さんのカルテ情報をこの研究に使用する際は、氏名およびIDを削除し、個人を特定できないようにします。また、それらの抽出データは、外部ネットワークと切り離されたパスワードロックのかかるパソコン上に保存します。この研究で得られた情報は研究責任者（中川 響）の責任の下、厳重な管理を行い、患者さんの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。なお、本研究において得られた情報は、院外への発表が行われてから5年保管し、適切に廃棄します。

## 5. 外部への試料・情報の提供

本研究の結果は2022年に開催される学会で報告します。

研究結果および報告内容に関しては、仮名化し個人情報特定できないよう配慮し、今回の研究目的以外に使用することはありません。

## 6. 研究組織

研究責任者

近江八幡市立総合医療センター リハビリテーション技術科 中川 響

研究担当者

近江八幡市立総合医療センター リハビリテーション技術科 杉田 美紀

## 7. お問い合わせについて

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ます。

また、本研究対象に該当するかたで、本調査へのご了承が得られない場合（診療録を見られたくないなど）は、下記の連絡先までお申し出ください。なお、了承の有無にかかわらず、患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究に了承いただけない場合の連絡先】

近江八幡市立総合医療センター リハビリテーション技術科

中川 響（研究責任者）

〒523-0082 滋賀県近江八幡市土田町 1379 番地 TEL 0748-33-3151